

全国の浜から ～JFグループの取組～

「全国の浜から」では、主にJFグループによる取組を紹介しています。今号では、新潟県佐渡島での取り組みや、長崎県五島地域でのモニタリング調査、COP10（生物多様性条約第10回締約国会議）に併せて行われた「生物多様性交流フェア」への出展・発表をご報告いたします。

資源増殖の取り組み（新潟県佐渡漁協外海府中央）

ナマコを増やすことを目的に、地元漁業者が中心となり小型増殖礁を製作し、波の穏やかな漁港内に設置しました。漁港の持つナーサリー（保護育成）効果を高めることで、ナマコの資源回復が期待されます！！



▲増殖施設の組立作業



▲増殖施設の沈設作業

継続したモニタリングの実施（長崎県五島地域）

各地で漁業者による積極的な藻場造成や資源回復のための取り組みを行っている五島地域では、引き続きモニタリングを行っており、繁茂する海藻やアワビ・カサゴなどが施設に集まる様子を確認しています。



▲繁茂する海藻(クロメ)



▲ブロックに隠れるアワビ



▲増殖施設に集まるカサゴ

COP10 「生物多様性交流フェア」に出展!!

2010年10月愛知県名古屋市で開催されたCOP10に併せ、生物多様性交流フェアが行われました。JF全漁連が事務局となっている貝殻利用研究会（貝利研）では、各会員の技術などを展示ブースで紹介し、フォーラム（主催 社団法人日本水産学会）では、貝利研会長の片山敬一（海洋建設(株)代表取締役）が「漁業者参加のもとカキ殻のリサイクルで海を豊かに」と題してプレゼンテーションを行いました。



▲片山貝利研会長によるプレゼンテーション